

自動運転の本格運行に係る財政支援の創設について

【担当省庁】内閣府、国土交通省

宇陀市における取組

(現状)

人口減少、高齢化の進行に対し、自動運転技術の活用による「全世代が住み続けられるための移動手段の社会実装」が、内閣府未来技術社会実装事業（令和4年度選定）として、また国土交通省の自動運転サービス導入支援事業として令和4年度に選定されている。

令和5年度には、特に高齢化が進行する住宅地と宇陀市立病院を結ぶ区間で運行し、通院や買い物支援の実証実験を行ったところである。

運行期間	令和5年12月4日～22日（土・日曜日除く15日間）
運行時間	午前8時～午後3時40分
運行数	7往復／日
運行距離	片道2.7km
最高速度	19km/h
乗車定員	10人（実証実験での乗客定員は6人）
利用者数	464人（一日平均30.9人、一便あたり2.2人）



実証実験での使用車両（タジマモーター社製GSM8）

(課題)

令和5年度に実施した実証実験は、地域公共交通確保維持改善事業費補助金（自動運転実証調査事業）を活用することで実施することができた。こうした補助金は、実装に向けての実証実験を対象としたもので、実装運行に対しては、地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金）があるのみで、地域公共交通計画を策定している本市においても、その補助上限額は少額であり到底実態とあっていない。

実証実験で要した経費	72,312千円
実証実験で要した経費のうち国庫補助金額	55,000千円
実装後の本市における国庫補助金の上限額	5,374千円 (人口28,121人×120円+2,000,000円)

国にお願いすること

デジタル田園都市国家構想総合戦略(令和4年閣議決定)において、令和9年度100カ所以上で自動運転サービスの実現を政府目標として掲げているものの、自動運転の実装に対する支援は十分でない。そのため、自動運転のレベルに応じるなど、実態に合った財政支援として、新たな支援制度を創設されるよう要望する。

【担当部署】 宇陀市政策推進課